

梅雨時に見られる薬草

昭和大学薬学部
磯田 進

【講師略歴】

- 1971年3月 東京農業大学 卒業
- 1971年4月 東京農業大学 研修生
- 1971年6月 国立衛生試験所春日部薬用植物栽培試験場研究生
- 1971年10月 昭和大学薬学部薬用植物園採用（助手）
- 1995年4月 昭和大学薬学部講師
- 2009年3月 退職
- 2009年4月 昭和大学，東京農業大学，昭和薬科大学非常勤講師

植物の調査関係では、環境省の希少動植物種保存推進委員・山梨県希少野生動植物保護対策検討委員を委嘱されています。

環境庁版（現環境省）の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」（レッドデータブック）の山梨県内の調査を担当し、山梨県版の「山梨県の絶滅のおそれのある野生生物」（山梨県版レッドデータブック）の出版を担当されました。

厚生労働省リスクプロファイル作成委員を委嘱、「日本の有毒植物」（学研）共著

梅雨時にみられる薬草

昭和大学 磯田進

昔から利用されている薬草や薬木、一般的には葉などを利用する薬草は開花期直前から開花期が適期といわれています。例えばゲンノショウコは、日差しが強く、花が一輪ほど咲いたところが最も有効成分が多く含まれています。従ってこのころが採取の適期となります。しかし開花期後半から結実するころになると、葉は下部から枯れ始め、同時に有効成分も減少し品質は低下します。一方、根や地下茎を利用する薬草は、地上部の各種成分が地下部に蓄積され葉が枯れるころ、または秋から冬にかけてが採取の適期となります。さらに樹皮を利用する薬木は、水分や養分を吸収して生育が最も旺盛な梅雨のころが採取の適期になります。これは木部と樹皮の間に位置する形成層という組織が最も活発に細胞分裂を行う時期に当たり、組織は柔らかく簡単に剥げやすくなるためです。

今回は梅雨の時期に樹皮や果実を採取する薬木、そして開花している薬草について紹介したいと思います。

◎梅雨の頃に採取する薬木

★アカメガシワ（トウダイグサ科）

山野に生育する落葉灌木。雌雄異株。

薬用には樹皮を用い、生薬名は赤芽柏（アカメガシワ）。

胃潰瘍、十二指腸潰瘍の改善薬。葉は健康茶。

和名は芽生えの頃、葉に紅色の毛を生じることから。

★キハダ（ミカン科）

各地の山野に生育する落葉高木。雌雄異株

薬用にはコルク層を除いた樹皮を用い、生薬名は黄柏（おうばく）。苦味健胃薬、黄色染料。

和名は樹皮の内部が黄色いことから。

★クヌギ（ブナ科）

各地の山野に生育する落葉高木。雌雄異花。

薬用には根皮を用い、生薬名は僕楸（ぼくそく）。

化膿性皮膚疾患の改善を目的とする十味敗毒湯に配剤。

十味敗毒湯は江戸時代の医師、花岡青洲が考案。

★クワ（クワ科）

養蚕用として栽培する落葉高木。多くの栽培品種が育成。雌雄異花。

薬用には根皮を用い、生薬名は桑白皮（そうはくひ）。利尿、高血圧症の改善、葉を健康茶。

最近は各地で果実の観光摘み取り園が各地で開設。

★トチュウ (トチュウ科)

中国原産の落葉高木。雌雄異株。

薬用には樹皮や葉を用い、生薬名は杜仲 (トチュウ)。

滋養強壯、高血圧や動脈硬化の改善、最近は葉を健康茶。

★ホオノキ (モクレン科)

各地の山野に生育する落葉高木。

薬用には樹皮を用い、生薬名を厚朴 (コウボク)。健胃、整腸、利尿。

葉は朴葉味噌 (岐阜県高山地方) や朴葉もち (長野県木曾地方)。

★ヤマザクラ (バラ科)

各地の山野に生育する落葉高木。

薬用には樹皮を用い、生薬名は桜皮 (オウヒ)。鎮咳、解熱、二日酔いなどの改善。

江戸時代末期までは、桜といえば本種を指していた。

◎梅雨の頃に花が咲く薬草・薬木

★アマチャ (ユキノシタ科)

ヤマアジサイの変種、薬用に栽培。

薬用には発酵処理した葉を用い、生薬名は甘茶 (アマチャ)。

甘味、矯味薬。

使用量を多くすると嘔吐の副作用あり。

★ウメ (バラ科)

中国原産、各地で栽培、多くの栽培品種が育成。落葉灌木。

薬用には燻製した未熟な果実を用い、生薬名は烏梅 (ウバイ)。

解熱、鎮外、去たん薬。

梅肉エキスは殺菌作用があり、昔から食あたりなどに用いた。

★エキナケア (キク科)

北アメリカ原産の多年草。各地でハーブ、観賞用に栽培。

薬用には開花期の全草を用い、生薬名はエキナセア。

免疫力を高める作用があるといわれる。

★ガマ (ガマ科)

各地の水湿地に生育する多年草。

薬用には花粉を用い、生薬名は蒲黄 (ホオウ)。消炎、利尿薬。止血薬として外用。

穂綿は、かつて綿の代用。

★カンレンボク・キジュ（ヌマミズキ科・オオギリ科）

中国原産の落葉高木。

薬用には果実や根を用い、生薬名は喜樹（キジュ）。

抗ガン剤原料。含有成分は副作用が強く、化学的に変化させて用いる。

★キササゲ（ノウゼンカズラ科）

中国原産の落葉高木。

薬用には果実を用い、生薬名はキササゲ。利尿薬。

和名はササゲ（マメ科）状の果実をつける樹木の意。

★ナツメ（クロウメモドキ科）

中国原産の落葉灌木。果樹として栽培。

薬用には果実を用い、生薬名は大棗（タイソウ）。強壯，利尿薬，ドライフルーツ。

初夏に芽生えることから夏芽の意。

★ナンテン（メギ科）

中国原産の常緑低木。観賞用に栽培。暖地の林床に野生化。

薬用には果実を用い、生薬名は南天実（ナンテンジツ）。鎮咳薬。

葉を赤飯などにそえる習慣がある。弱い殺菌作用を期待？ 難転の語呂合わせ？

★ノイバラ（バラ科）

各地の原野に生育する落葉低木。

薬用には果実を用い、生薬名は営実（エイジツ）。峻下，少量では緩下薬。

和名は野に咲くバラの意。

★ムラサキ（ムラサキ科）

各地の草原などに生育する多年草。絶滅危惧種。

薬用には根を用い、生薬名は紫根（シコン）。皮膚病，火傷などに外用。紫色染料。

軟膏の紫雲膏は江戸時代の医師，花岡青洲が考案。